

# 事後評価概要資料

番号	1001	担当課名	道路街路課													
事業名	道路改築事業	事業主体	埼玉県													
路線・河川・地区名	一般国道122号騎西菖蒲バイパス	事業箇所名	加須市、久喜市、白岡市													
事業完了年度	H22年度	事業完了後の経過年数	2年													
事業概要	目的	混雑箇所を迂回するバイパスの整備により、旧道および周辺道路の渋滞解消と圏央道のアクセス向上を図る。														
	必要性	一般国道122号は、埼玉県北東部を縦断する主要な幹線道路であり、交通量が非常に多く久喜市内の菖蒲宮本交差点付近などで慢性的な交通渋滞が発生していた。 また、圏央道白岡菖蒲ICが近接し、県や地元市では土地区画整理事業や企業誘致を積極的に進めている。このため、交通の円滑化と地域経済の発展に資するバイパスの整備が必要となっていた。														
	効果	通過交通のバイパスへの転換が図られ、現道および周辺道路の渋滞が大幅に解消し、沿道地域から圏央道へのアクセスも大きく向上した。														
	事業内容	総事業費	15,800百万円	事業期間	H2~H22 (21年間)											
		バイパスの整備 延長10.4km、幅員25.0m (完成4車線) 主な構造物 橋りょう														
事業概要図																
事後評価項目	事業の効果の発現状況	<b>①バイパス開通前後の交通量の変化 (菖蒲宮本交差点)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H20.6)</th> <th>開通後 (H24.6)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現道</td> <td>19,416台/日</td> <td>8,499台/日</td> <td>-10,917台/日 (-56.0%)</td> </tr> <tr> <td>バイパス</td> <td>—</td> <td>28,504台/日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				開通前 (H20.6)	開通後 (H24.6)	差	現道	19,416台/日	8,499台/日	-10,917台/日 (-56.0%)	バイパス	—	28,504台/日	
		開通前 (H20.6)	開通後 (H24.6)	差												
	現道	19,416台/日	8,499台/日	-10,917台/日 (-56.0%)												
バイパス	—	28,504台/日														
		<b>②渋滞状況 (菖蒲宮本交差点)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H20.6)</th> <th>開通後 (H24.6)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大渋滞長</td> <td>470m</td> <td>0m</td> <td>-470m</td> </tr> </tbody> </table>				開通前 (H20.6)	開通後 (H24.6)	差	最大渋滞長	470m	0m	-470m				
	開通前 (H20.6)	開通後 (H24.6)	差													
最大渋滞長	470m	0m	-470m													
		<b>③旅行速度の比較 (混雑時: 17:00~19:00)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現道 (H20.6)</th> <th>バイパス (H24.6)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旅行速度</td> <td>19.8km/h</td> <td>39.8km/h</td> <td>+20.0km/h</td> </tr> </tbody> </table>				現道 (H20.6)	バイパス (H24.6)	差	旅行速度	19.8km/h	39.8km/h	+20.0km/h				
	現道 (H20.6)	バイパス (H24.6)	差													
旅行速度	19.8km/h	39.8km/h	+20.0km/h													
目	効果分析の要因の変化	再評価時 (H16) との比較 ・全体事業費 141億円→158億円 (17億円増) ・供用年度 H19→H22 (3年増) ・B / C 4.2→2.8 (1.4減)														
	事業実施による副次的効果	国道122号の開通により沿道の区画整理区域内に大型商業施設や工場等の立地が推進され、地域の活性化とにぎわいの創出が図られた。														
評価結果及び考察	(評価結果) ○バイパスの整備により、旧道や周辺道路の混雑が大幅に解消するとともに圏央道へのアクセスも大きく向上した。また、地域の活性化にも寄与している。 (考察) ○今後も道路事業については、事業効果の早期発現に努める必要がある。															
特記事項																